

熊本地震報告(益城町)

障害者支援施設 熊東園からの報告

平成28年4月14日(木)前震発生

4/14(前震)

熊本県熊本地方-マグニチュード6.5/震度7

- ・益城町広崎にある私の自宅(一軒屋)で子供寝せてるときに、地面が突きあげられるような突然の衝撃とともに大きな揺れの震度7発生。タンス、食器棚は倒れ、陶器やガラスの食器類も全部床に落ちて割れるものは全て割れ、足の踏み場もないほど家の中が散乱。(タンスも食器棚もすべて転倒防止ベルト、壁に転倒防止金具のダブルでつけていたが倒れる)
- ・前震があったあとは、数分程度の停電はあったもののすぐ復旧し、電気、水道、ガスは使用可能。
- ・熊東園へ電話掛けると利用者も職員も全員怪我等なく無事で中庭に避難してるとのこと。その後施設を見に行くと、余震のたびに利用者の悲鳴はあるものの、みなさん元気で、中庭に避難してる状態。(我が家は前震があった直後の震度6の余震で、電気と水道がストップするが、熊東園は電気も水道もストップしていない)
- ・前震の約40分後に震度6弱をはじめ、その後も震度5弱、震度4をはじめ30回前後の余震がある。
- ・震度も2~4が頻繁に続いたがもう大きい地震はないだろうと午後11時すぎに利用者にサービス棟へ移動してもらいそこで就寝してもらった。
- ・前震が起こったあとも頻発する強い余震のため、地域の住民が熊東園のグラウンドに自主避難(車約10~15台、30~40人)
- ・熊東園グラウンドは遊具も設置し、日中は365日地域の方に開放しており、平日午前は幼児を連れてたお母さんたちの談笑の場、午後や土日は小中学生が野球をしたり等誰でも入れるグラウンドにしてたため、正規の避難場所ではなかったが自然発生の自主避難場所となる。
- ・夜が明けてから見る光景は、アスファルト亀裂、マンホールにできた大きな段差、亀裂などありとあらゆるところで通行不能になっていた。

前震翌日(4月15日)

- ・震度6強1回ほか、この日もその後震度3~5の地震が30回ほどある。
- ・私の家の中はタンスも食器棚も全部倒れ、食器などありとあらゆるものが割れて床に散乱状態のため車中泊したあと施設にいくと、園の玄関のガラスが割れ、事務所の中もファイル棚が倒れ、コピー機も転倒、机もあちこちに動いており、書類もほぼ床におち散乱して足の踏み場もない状態。サーバーは転倒しておらず、電源つけると正常に動きデータが壊れてなかったことが不幸中の幸い。
- ・厨房の中は、床が油まみれ、冷蔵庫など厨房機器も傾き、いろんな厨房機器も揺れで動いたりしており、しばらくは調理不能な状態。
- ・ライフラインはストップしてないので利用者は自室で過ごすことができた。
- ・厨房使用不能のため、とりあえずは保存食等で食事を提供する。保存食と保存飲料は3日分くらい貯蓄しており、前震が本震ととらえ、これ以上の地震はないだろうとこのときの考えであった。まさかその後に本震がくるとはだれも想像さえできなかった。
- ・この日は、事務所、厨房、支援員室、利用者居室など、室内片付けと外回りの片付け。
- ・建物はあちこちにヒビ、欠けなどあるものの倒壊の心配はなし。
- ・地震の震源地が益城町ということもあり、人吉の福祉施設より、その施設で貯蓄されてた沢山の非常食、飲料水を熊東園まで持ってこられる。(そのおかげで約1週間分くらいの非常食、飲料水は確保でき心にも余裕ができた)
- ・夜に自宅の戻ると、今度は我が家の片付け。しかしタンスや食器棚は倒れており、割れた破片など散乱もひどく寝れる状態ではなく、家の中の片付けも1週間はかかる状態であった。



熊本地震報告 熊東園

熊本地震(前震)の震度

4月14日21時26分の地震の震度と観測された市町村

震度/都道府県/市町村

- 7** / 熊本県益城町
- 6弱** / 熊本県玉名市、西原村、宇城市、熊本市
- 5強** / 熊本県菊池市、宇土市、大津町、菊陽町、御船町、美里町、山都町、氷川町、合志市
- 5弱** / 熊本県高森町、阿蘇市、南阿蘇村、八代市、長洲町、甲佐町、和水町、上天草市、天草市
宮崎県椎葉村

本震4月16日

・1時25分熊本県熊本マグニチュード7.3 震度7の本震発生

前震とは比べ物にならないほどの突き上げる激しい揺れで立ってさえられない凄まじい揺れ(5月に罹災証明手続きにいったときに、前震で震度計が壊れたため、本震の実際の震度は分からなく、本震は震度8以上あったのでは。おまけに震度7、震度8、震度9でも扱いは震度7と同じで震度7までしか規定がないという話を罹災証明受付の担当者がいわれてました。実際の震度はどれくらいだったのでしょうか?)

・前震によりいろんなことが混乱する中、慌ただしい1日が過ぎ、頻発する大きな余震に驚かされながら過ごした1日。今後のことを考えながら、車や避難所などで過ごす人が多い中、またもや誰もが予想しえない震度7の本震が起こる。2度目の大地震は、すべての人の恐怖心をさらに増大させることになってしまった。

・本震発生したその後も、20分間のうちに震度4~6の余震が数回立て続けに起こる。「また震度7クラスが起こるのでは」、「これだけ激しい余震が続くときっとまたさらにひどい大地震が来てしまう」という恐怖心から抜け出せなくなる。

・本震後、施設に連絡入ると、利用者、職員にケガ等もなく無事なことを確認。その後施設に向かうと、道路は亀裂、断層?で50cmほどのズレ等あちこちに発生。アスファルトも波打ったグチャグチャ



玄関の窓ガラスが破損



室内はどこも散乱

な箇所が多々で夜の移動はかなり危険な状況であった。

・施設内は、事務所、厨房、支援員室などの大型機器など、前震のあとせつかく片付けてたにもかかわらずさらにヒドイ散乱状態に。フェンスも傾き隣の民家に倒れそうな状態。グラウンドも敷地内もあちこち地割れ。(私の家は倒壊の恐れはないような感じだが、家の中の散乱はさらにヒドイ状態に。本震により熊東園施設長の自宅は倒壊)

・本震後に、ライフライン(電気、ガス、水道)が全部ストップする。

・この日も震度5~6の強い余震が続き、震度3以上の余震が30回程度あった。

・朝明るくなってから見た街並みは全くの別物になっていた。



熊本地震報告 熊東園

熊本地震(本震)の震度

4月16日1時25分の地震の震度と観測された市町村
(震度/都道府県/市町村)

- 7** / 熊本県西原村、益城町
- 6強** / 熊本県南阿蘇村、菊池市、宇土市、大津町、嘉島町、宇城市、熊本市
- 6弱** / 熊本県阿蘇市、八代市、玉名市、菊陽町、御船町、美里町、山都町、氷川町、和水町、上天草市、天草市、大分県別府市、由布市
- 5強** / 福岡県久留米市、柳川市、大川市、みやま市佐賀県佐賀市、上峰町、神崎市、長崎県南島原市、熊本県南小国町、小国町、産山村、高森町、山鹿市、玉東町、長洲町、甲佐町、芦北町、大分県豊後大野市、日田市、竹田市、九重町、宮崎県椎葉村、高千穂町、美郷町
- 5弱** / 愛媛県八幡浜市、福岡県福岡市、遠賀町、八女市、筑後市、小郡市、大木町、広川町、筑前町、佐賀県白石町、みやき町、小城市、長崎県諫早市、島原市、雲仙市、熊本県荒尾市、南関町、人吉市、あさぎり町、山江村、水俣市、津奈木町、大分県大分市、臼杵市、津久見市、佐伯市、玖珠町、宮崎県延岡市、鹿児島県長島町

余震・本震発生後も震度4以上の強い余震が頻繁に続く

- ・ 4月14日21時26分/ 熊本県熊本地方- MJ6.5 / 7 (前震)
- ・ 4月14日22時7分/ 熊本県熊本地方- MJ5.8 / 6弱
- ・ 4月15日0時3分/ 熊本県熊本地方- MJ6.4 / 6強
- ・ **4月16日1時25分熊本県熊本マグニチュード7.3 本震発生**
- ・ 1時25分37秒大分県中部MJ5.7
- ・ 1時30分熊本県熊本MJ5.3 震度4
- ・ 1時44分# 熊本県熊本MJ5.4 震度5弱
- ・ 1時45分# 熊本県熊本MJ5.9 震度6弱
- ・ 3時3分# 熊本県阿蘇MJ5.9 震度5強
- ・ 3時55分# 熊本県阿蘇MJ5.8 震度6強
- ・ 7時11分# 大分県中部MJ5.4 震度5弱
- ・ 7時23分熊本県熊本MJ4.8 震度5弱
- ・ 9時48分# 熊本県熊本MJ5.4 震度6弱
- ・ 16時2分# 熊本県熊本MJ5.4 震度5弱

※余震発生～本震発生の日間で震度3以上の地震が180回

※熊本地震発生後、4月末日まで(16日間)に発生した震度1以上の地震は1093回



前震後の調理場。(床は油まみれ、機器は転倒)、本震後はさらにひどい状態に



→道路もいたる所が陥没し危険な状態。あちこちで通行止め。橋(広崎橋、福富橋、惣領橋)も全部通行止め。県道高森線も同じような状態で4輪駆動の自動車でも役場がある木山(宮園)までは到底いけない状況であった。



熊本地震報告 熊東園

本震直後の被害

本震数日後、県に被害状況を報告。しかし、その時点ではすべての被害を把握することはできなかった。

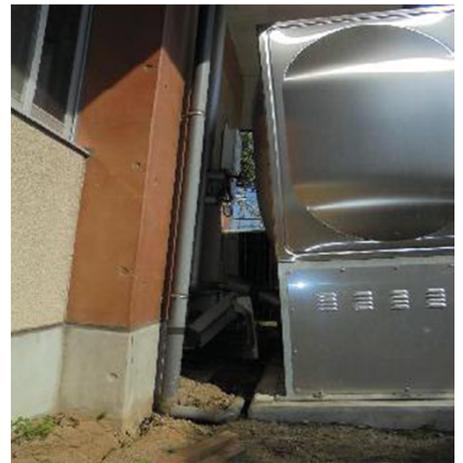
- ・ スチームコンベクション転倒破損・業務用乾燥機傾き故障・ボイラー傾きとズレ
- ・ ボイラーの排気煙突はずれ・園の西側壁と土留とフェンスが民家側に倒壊しそう
- ・ 柱基礎剥離(2丁目と3丁目のスロープのところ)
- ・ 重油タンクからボイラーにつないでる地中の管破損(重油漏れ)
- ・ 業務用洗濯機故障
- ・ 建物内部のあちこちにヒビや亀裂・スロープと建物がズレ・床にズレ
- ・ 玄関ガラス割れ・地中の給排水管があちこちで破損・わたり廊下屋根破損
- ・ 給湯器傾き・足洗い場ヒビ・石垣陥没・石垣破断・東側フェンス傾き
- ・ 基礎の柱一部破損と剥離・屋根部割れとヒビで雨漏り・通所棟にもあちこちにヒビなどまだ震災直後は全容を把握できてない状態。被害総額は3500万～4000万との報告をしている。



奥にあった自販機も手前まで動いている



事務所



地盤が下がり傾いた
スプリンクラータンク

敷地内のあちこちに地割れ

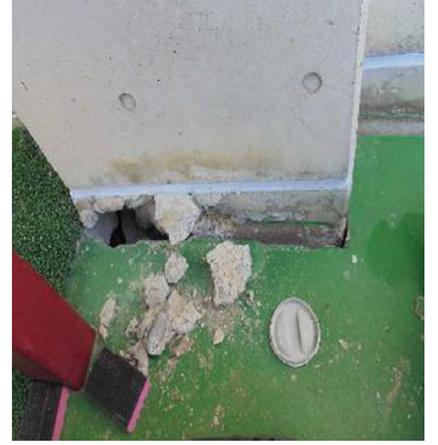




熊本地震報告 熊東園

施設被害

柱部分



壁のいたるところにクラックやヒビ



壁にもヒビ。
この部分は室内で雨漏り



道路と敷地外構が離れる



隣接する民家に傾いたフェンス
(隣の民家まであと5センチ)





熊本地震報告 熊東園

本震があった後、ライフラインが全てストップ

◎調理場の中もぐちゃぐちゃで調理不能な状態→施設の保存食、保存飲料と人吉の福祉施設からいただいた保存食、飲料水で数日過ごすことができた。その後は八代の福祉施設より弁当を毎食配達してもらった。

◎断水のためトイレが流れない。→プールに貯めておいた水をくみ、その水でトイレを流して使用。(断水期間は2週間ちょっと。GWに入り断水は解消されたが、そのころにはプールの水はほぼ空状態)

◎断水のため、お風呂に入れない。→長嶺の福祉施設のグループホームのお風呂を熊東園利用者用としての時間を設けていただき入浴させていただいた。(熊東園の利用者49人、グラウンドに避難されてる地域住民多い時は100名以上だったため、自衛隊の簡易風呂か、熊東園のお風呂の湯船にお湯をためてもらえないかということ役場に要請をかけてはいたがその要望はかなわなかった。)

◎断水のため洗濯できない。→1週間程度で断水が復旧した地域もあり、そちらのコインランドリーへ。(大部分の地域が断水で、コインランドリーには毎日長蛇の列。ボランティアの方をお願いしコインランドリーに並んでもらうことと洗濯をお願いした。約10日間)

◎強い余震が続き、断水のためトイレが流れないこと、また利用者の安全を優先し、訓練棟の1か所に集まってもらい生活。

◎強い余震も頻繁にあり、外は地割れなど危険箇所も多々だったため、利用者の方は外にもあまり出れない、一か所で寝泊まり、一か所で日中を過ごすという状態が続き、利用者、職員ともかなりのストレスがかかった状態。

・職員の半数以上が一部損壊、半壊、大規模半壊、全壊の被災者。職員の半数以上が避難所、または車中泊状態。



本震直後のグラウンド

自然発生の避難場所となった熊東園グラウンド。
(最大50~60台の車が避難されてこられた。
右側には自衛隊給水車が常駐)

・熊東園のグラウンドが、本震後にまた自然発生の避難所状態になり、マックス時には車50~60台、100人以上の人が自主避難されてこられる。停電、断水のため施設のトイレが使えないのでグラウンドの避難者用に仮設トイレを手配し、避難場所になったグラウンドに仮設トイレを3か所設置。エコノミー症候群を少しでも防止できるようにと通所棟も避難してこられた地域住民に解放。(5月初旬まで)

※避難者ピーク時は、通所棟で寝泊まり20~30人、グラウンドでの車中泊100名前後

・ライフラインが全てストップのため、調理が何もできず連日の非常食生活。栄養も考えて、お弁当、仕出しをしてもらった八代の福祉施設にライフラインが復活する



日中は自転車や荷物などを置かれて場所取りされた状態で仕事などにでかけられてる。
夜のグラウンドは車中泊の車で満車状態。

までの間、お弁当を朝昼晩の3食を100食ずつお願いできないか相談すると、お弁当毎日朝昼晩100食の配達をしてくれることになる。弁当の配達も、道路はいたるところで波うちグチャグチャ、あちこち地割れの段差等があり、通行止めもあちこちという状況の中、配達だけでもかなり危険な状態で、あちこちで大渋滞する道路状況にも関わらず、毎日長時間かけて熊東園まで朝、昼、晩各100個のお弁当を配達していただき、とても助かったし、感謝の気持ちのみであった。

・震災後、正規の避難所では支援物資が配給されてたが、2時間以上並んでもらえるのは塩気もないおにぎり1個という現状。正規避難所の配給だけでは到底利用者分まで確保できない状況であったため、お弁当はとても助かった。



熊本地震報告 熊東園

避難してこられた地域の方に解放した通所棟
20人～30人ほど方が寝泊りされた。



グラウンドに常駐して頂いた自衛隊の給水車。約3週間近くの断水だったため毎日絶え間がないくらいに地域の方が水を汲みに来られる。避難者用に仮設トイレ(水色)も3機設置。

困ったこと！課題

- 熊本地震発生が季節の変わり目の時期でもあったことから、精神疾患を重複されてる方、高齢の方への心身のケアを特に必要とした。行動停止および拒否、不眠、食欲不振、水分・服薬拒否、暴言、暴力等。
- 協力医(精神科)の緊急受診等で内服等処方してもらっても、1名(男性)の方は暴力行為(女性職員や他利用者を殴る等)がなかなか落ち着かれず、のちに入院に至ってしまう。
- 自閉症の方に関しては、個人の居室、食堂、入浴が使用不可になり、個人差はあるが1～2日は順応できず不安定な状態になられた。
- 職員の大半も被災しており、震災によるストレスで情緒不安定な職員も。出勤シフトでも職員の精神状況も勘案してから臨機応変に組まなければいけないという状況。朝からの出勤後の職員の心身状況の見極めも必要とした。
- 防災対策マニュアルにおいては、ライフラインが使用できないことを想定した見直しが必要。(暑い時期と寒い時期でのライフラインストップは別物の対応となるので季節、時期に応じたもの)



避難者のマックス時には夜には他に1台も停められないくらいの状態であった。



熊本地震報告 熊東園

現在(12月初旬)の状況

12月現在の現状は、危険な箇所、日常生活に支障がでる箇所など早急に仮復旧が必要なところ以外はまだ修理もはじめれない状況で、地中の給排水管はあちこち破損で修理箇所をつないでもつないでも復旧せず、応急処置で地上でダイレクトに管をつないだだけ。外回りもかなりの地盤沈下を起こしておりあちこちで地割れた土地、傾いたフェンスなど危険箇所が多々あったり、建物もヒビは割れなど補修箇所も沢山ある状態。

◎震災直後に、早急に復旧させてもらったこと

・とりあえずトイレが流せるように地中からダイレクトに管をつないでもらいトイレの1か所を流れるようにしてもらった。(地下の配管は水が漏れてる数か所を応急処置でつないでもらうも水はでない。配管のあちこちが破損してる事が考えられ応急処置は不能状態)

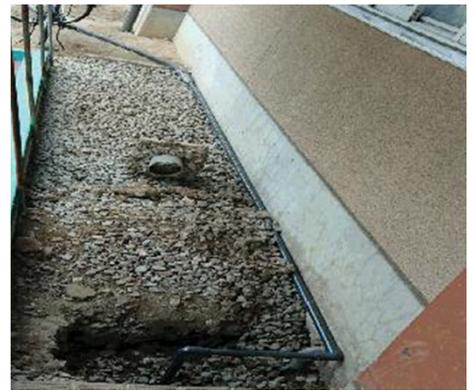
ダイレクトに地上で仮に繋いだ水道の管 修理がまだ出来ておらず12月現在もこの状態



屋根の上から直接管を
持ってきた応急処置



水道管は全部地上でつなぎ仮復旧地



・建物内外の危険箇所の仮の応急処置、雨漏り箇所の応急処置。

◎5月に上水道が開通したあと(水がこないと壊れてるのかも点検できなかった)

・壊れた厨房機器を修理、修理不能な機器はリース契約で手配。

・トイレ以外にも、厨房、お風呂、洗濯場にもダイレクトにホースをつないで仮復旧。

・傾いた大型洗濯機の復旧と修理

・大型乾燥機が修理不能でリース契約にて手配。

・お風呂用の重油ボイラーずれを復旧と修理。重油タンクからボイラーまでの地中管が破損しており、地中で重油漏れ。地中のボイラー管の修理、補修

・食器類が全て破損のため食器類を一式購入。



熊本地震報告 熊東園

支援物資について

震災直後から1週間は、地域の方が100人以上避難してる状況であったが、指定された避難所ではなく、自然発生の避難所のため、公的な支援物資は震災後1週間くらいは何もこない状況であった。震災後数日してから届きだした物資は、福祉関係、福祉のネットワークからの支援物資のみであった。福祉ネットワークの繋がりにただただ感謝するだけだった。福祉つながり、福祉ネットワークからの物資がなければ、指定の避難所ではない熊東園に、町などからの公的な物資は1週間以上は何も届いてない現状であったため食料、飲料確保に不安だらけだったと思う。

震災1週間前後に、町内の小中学校の児童や生徒の安否確認、現在どこにいるか等の調査が各学校であり、その調査で熊東園グラウンドに避難しているという児童や生徒が沢山いたということが学校や町も把握され、その後に町などからも物資が少しずつだが届くようになった。

(必要な支援物資は毎日変わる)

震災当初は、町などからの公的な物資はなく、利用者の食料と飲料の確保が一番の心配ごとであった。震災後数日してから福祉関係から沢山の物資が届きだしてからは、飲み物食べ物の調達の心配は少なくなってきたが、次に必要になるものは、断水のため手も顔も洗えない状況なので、ウェットティッシュ、お手拭、タオルなど。断水で洗濯も出来ないの、下着などの着替え、トイレトペーパー、ティッシュペーパー、生理用品などの日用品であった。断水がいつまで続くのか分からない状況だと、ある程度ストックできたとしても、長期戦になった場合はどうしても食料、飲料が足りなくなるという心配はずっと絶えなかった。(施設だけでなく町自体の被害も凄かったため長期戦になることは容易に想像できた)

震災後に保健所から、「食中毒の菌は床から発生していく。食中毒発生の原因になるので床に落ちた食器や調理器具等はすべて使用しないでください」と連絡があり、一度床に散乱してしまった箸や食器も鍋なども使えないので、カセットコンロ、カセットぼんべ、紙皿、紙コップ、割りばし、鍋、ヤカン等が必要になるなど、日に日に必要なものが変わっていった。

日ごとに変わる細かな要望に、沢山の施設、県の協会、九州の協会、全国の協会からの支援物資もこちらの要望を聞いてくれたあとの物資提供と、本当に福祉ネットワークの繋がりが生命線といって過言ではなかった。

連絡(通信)手段

本震のあとは停電(2~3日)になり、施設の電話機が使えない状態になり外部から施設への連絡手段がなくなる。そのとき活躍したのがスマートフォンやガラケーなる携帯電話機。通信手段は携帯電話のみであった。

今回のような大規模災害だと、回線が混みあうためか、メールが送れなく、電話がかけれない状況が頻繁に起こる。しかし、LINE(スマートフォンで無料でメッセージ交換や音声通話ができるサービス。ガラケーでできるのかは分からない)だけは回線が混みあうことなく震災直後からスムーズに通信(電話もチャットも)できたし、繋がらなくなることも皆無であった。

携帯電話機が唯一の通信手段であったが、停電だとコンセントから充電ができないので電池が切れたらどうしようもない。コンセント使わない電池式の充電器はおろか電池もすべて売り切れで入手ができない状況が続いた。携帯電話機を使い続けるために重宝したのが、車のシガーソケットから充電できる車内充電器！これがなければ携帯電話の電池は切れ連絡も取れなくなってしまうと思う。

繋がりにくい場合には、職員同士での連絡もLINEで連絡とることも多々あった。



熊本地震報告 熊東園

- ・震災後数日は非常食、パンの食事。お弁当を手配できてからその後お弁当での食事だったがお弁当についている数日ぶりに味わう調味料(醤油、ソース)が感動的でさえあった。
 - 毎日お弁当で食事を確保できてたが、食事は毎日お弁当、余震も頻繁にあり不便な生活をしいられてる日が長くなってくると利用者もかなりストレスが溜まってきてる状態のため、食事以外にもちょっとした贅品(お菓子、ジュースなど)を要望し、ちょっとしたお菓子、ジュースなどもストレス発散に役立った。(開いてるコンビニみつけてもジュースもお菓子も売り切れ状態が長い期間つづいた)
 - ・震災後、1週間過ぎるくらいから、炊き出しボランティアなど県内外から来られ、久しぶりに口に作る手作りの温かいスープ、温かい食べ物が身に染みるくらい美味しく、利用者のみなさんはとても喜ばれて食べられてた。(当然職員も)
 - ・炊き出しに来られる相手の都合にもよるが、可能ならば園のグラウンドに避難されてる方々の分もお願いできないか相談も必ずしていた。
 - ・支援物資で必要なものは、震災直後(ライフラインがストップの場合)、食料、飲料。食料、飲料が1週間分?くらいストックできたあとも、食料、飲料があちこちから届きだし、置く保管場所もなくなる状態に。震災後の困った状況で、みなさんからの親切や好意なのでありがたい限りだったが、被災地では、その時の状況に応じて必要なものが日に日に変わっていくという状況であった。しかし終わりが見えない状況で、断水が長期戦になればストックしてる食料飲料が足りなくなる心配もつきなかった。
 - ・ライフラインの復旧状況は、ガスと電気の復旧は早かった。ガスと電気は2~4日で復旧。一番復旧に時間がかかるのが上水道と下水道(3週間近くの断水であった)。また上水道が開通しても施設に引きこむ敷地内の水道管が破損してたら水はこないし、上水道がきてても下水道管が途中で破損してたらトイレが使えなかった。下水道管が漏れてるところから異臭物があふれ出し、悪臭がでてくるので下水道管がいかに需要かということと、上下水道管は復旧に時間がかかりかかると言うことが良くわかった。
- ※上水道管がつながり復旧しても下水道管が壊れてたら、トイレも流せず、トイレだけでなく台所や洗面所の水もながせないの、結局水道が使えない状態のままである。

最後に

平成28年熊本地震により被害を受けられた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
一刻も早い地震の終息と皆さまの安全と一日も早い復旧をお祈りいたします。

お礼

熊本地震により、ライフラインがストップし(水道においては3週間近く断水)、利用者の皆様が施設にて生活できるのか非常に不安な状況でしたが、沢山の福祉施設の皆様、熊本県知的障がい者施設協会、九州福祉協会、日本福祉協会など、福祉繋がりの方々からご心配いただいたり、お言葉をいただいたり、たくさんの支援、沢山の物資などなどがあつたおかげで、ライフラインが復活するまで施設にて無事に生活することができました。

福祉つながりの皆様からのご支援がなかったなら、施設での生活は不可能な状況でした。

みなさまの親切やお心遣いには感謝しかありません。

本当にありがとうございました。

平成29年1月20日
社会福祉法人耕心会
障害者支援施設 熊東園 事務長 永田敏夫